

「平成24年度東久留米市事務事業見直しのための仕分け」 委員の意見・提言

番号	B-1	担当課	企画調整課 秘書広報担当
事務事業名	広報発行事業		

判定区分													
(仕分け市民委員数はA班5名、B班5名)													
1	不要	2	民間	3	国	4	東京都	5	他市町村との広域連携	6	東久留米市(改善有)	7	東久留米市(現行通り)
	0		0		0		0		0		4		1

仕分け委員 意見・提言

委員・・・6東久留米市(改善有)③自主財源確保の努力(料金改定など)伝言板の有料化⑦その他(①体育協会・文化協会への委託事業であることを明示し、その他は伝言板へ移す。②シルバー人材センターへの委託(配布)分は、相場に合わせるべく、入札等を行う。)

- ①体育協会・文化協会への委託事業は、そのことを明示のうえ記載する。それ以外の両団体が自主的に行うイベントは、伝言板の中で他団体と同様にとり扱う。
- ②シルバー人材センターへの配布委託は、入札などにより、相場にあった単価とする(障がい者団体は、すえ置き)(契約事務規則に基づき見積りを複数取るように願います。)
- ③伝言板の提出は有料とする。
- ④「市長の声」を定期的に掲出する。

委員・・・6東久留米市(改善有)②事業規模を縮小すべき③自主財源確保の努力(料金改定など)⑤民間を活用した方が効率的(業務委託・指定管理者等)⑦その他(コスト削減を大前提に取り組んで欲しい。)

- 発行回数・刷色数→財政が厳しい状況の中で、これらを市民に問うて見てはいかがか。
- 配布の単価が高過ぎる。近隣の高い市に合わせず、低い市を見習って、更に低くするべき。
- 広告収入などの自主財源の確保を考えてみてはいかがか。
- 発行回数を減らすとよりコストが掛かるといふ発想が理解できない。本当に財政が厳しい状況を理解しているのか。

委員・・・7東久留米市(現行通り)①現行通りに事業継続

○市と市民とをつなぐ1番有力なメディアであるから、これまで通りの発行回数、見やすい編集方法として2色刷。情報量を維持することに留意されたい。配布方法についても、障害者団体もシルバー人材センターも委託する意義は十分あるので、変更することはすすめない。伝言板の有料化・広告収入の可能性を探ることを希望する。

委員・・・6東久留米市(改善有)⑤民間を活用した方が効率的(業務委託・指定管理等)
⑥パートナー事業化(新たな公共の担い手など)

- 月2回発行は内容によっては、緊急性の必要はどうか?
- 市直接事業以外は、広告等を掲載し経済的負担を軽減すべき。
- 助成事業の広報は、行政職員が担当すべきか疑問です。
- 障害者への就労は確保すべきだと思います。

委員・・・6東久留米市(改善有)③自主財源確保の努力(料金改定など)

- 市民伝言板の将来の有料化を図る。→入りを量る工夫。
- 広告掲載工夫 ○配布方法の見直し・有り方 ○モノクロ工夫 ○コストダウンを工夫

担 当 課 の 考 え 方

- ①広報紙の発行回数・頁数・色については、直近の記事の掲載に努めるとともに、記事や図表・グラフの増加傾向を考慮し、視認性の確保及び頁増に伴う読者の負担感の軽減の点から、現状通りの原則月2回・8頁・2色刷りを維持します。
- ②広報紙への広告掲載については、導入に向けて調査を行う。また、「市長コラム」の掲載については、市長の判断をあおぎます。
- ③体育協会・文化協会が行う催し等のお知らせを広報紙へ掲載することについては、今後担当課である生涯学習課と協議を行い、指針を策定する方向で検討します。
- ④広報紙の配布手数料については、シルバー人材センターに対し単価削減を検討するよう依頼するとともに、入札導入に向けた検討を行います。障害福祉団体とそれ以外の事業者を分けて配布単価を設定することについては、検討します。
- ⑤市民伝言板の有料化については、市民相互の情報交換や交流を支援し、公共施設の利用促進を図る目的から、現状通り無料掲載を維持しますが、他市の動向等については、調査研究をしていきます。